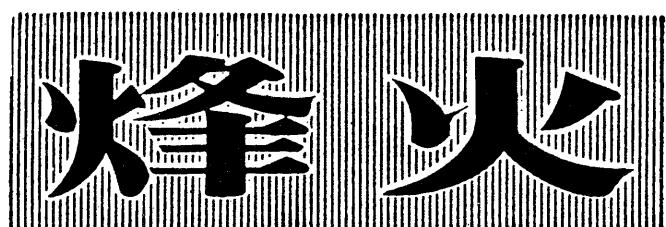


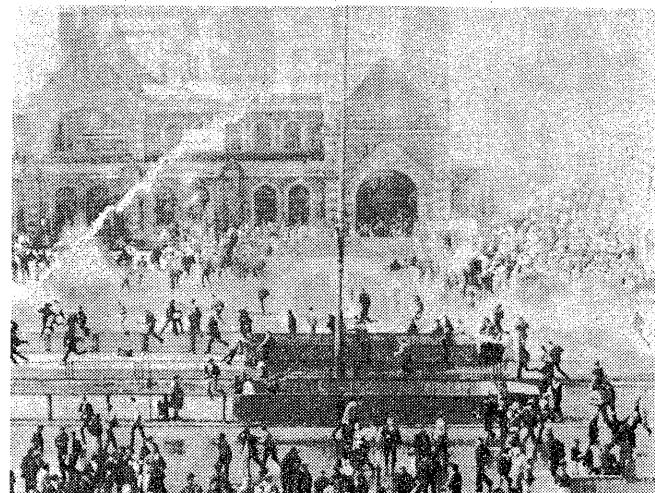
☆帝国主義の侵略反革命、社会帝国主義の武装反革命を粉碎し、世界革命戦争一世界プロ独を組織する世界単一党を国際階級闘争の最前線に組織せよ！

1983年
5月10日
第349号
編集発行人 高木一夫
一部 200円



共産主義者同盟（全国委員会）

- 大阪戦旗社 大阪市大淀区本庄東2丁目2の31
とみやビル15号 Tel(06)371-3706
- 郵便振替 大阪3-63333 高木一夫
- 銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫
- 東京戦旗社 東京中央郵便局 私書箱1114号



全国労組連・労働者政治統一戦線・革命の伝導路の建設掲げ 政治攻勢を組織せよ



ポーランドでメーデー爆発

さる五月一日、ポーランドで自主労組「連帶」による一大人民決起が、ポーランド政府の反革命厳戒体制をぶち破つてかちとられた。メーデー当日のこの日、ワルシャワ、グダニスク、ノバフタなど約二〇ヶ所以上の都市で少なくとも一〇万人以上の労働者人民が参加して、政府の官製行事に対抗した自主デモ・自主集会・自主祝典が決行されたのである。これにたいしてヤルゼルスキ政権は、放水車・催涙ガス弾・警棒などを使用した死者をも出す弾圧をくりひろげ、マスコミを使って「社会主義の敵による扇動がおこなわれた」という許しがたいキャンペーンを張った。今回のメーデー決起によつて「連帶」は非合法下におかれながらも依然健在であること、逆にますます力をたくわえていることを全世界に示した。ポーランド階級闘争は不屈である。ポーランド人民に連帶する闘争をつくりあげよう！

二期用地内一空港管制塔前を戦闘的デモでたたかう反帝戦線部隊(3・27)

三・二一エンタープライズ佐世保寄港阻止闘争、三・二七三里塚現地闘争への決起をもつて八三年春期闘争の序幕は切っておとされた。日本帝国主義による侵略反革命戦争準備は着々とすすみ、四月三〇日からは中曾根がアジア全域の支配をめざし、一月の訪韓につづき、ASEAN五ヶ国歴訪をおこなった。これがさらなる経済的収奪と、各国軍事独裁政権のテコ入れをつうじた新植民地支配の強化を目的としたものであることはあきらかである。国内では八三春闘が、全民労協II帝国主義的労戦統一派の手によってたたかわずして敗北させられ、完全な管理春闘へと封じこめられた。ブルジョアジーの側の余裕のない攻撃は、ますます激しくなっている。

敵の戦争・ファシズムの道に、革命的プロレタリアートは社会主義革命の準備戦を対置せねばならない。武装蜂起—プロレタリア独裁の大道をプロレタリア階級の深部からきりひらいていかねばならない。全国労組連・労働者政治統一戦線・革命の伝導路II労研の三位一体の建設をおしすすめよ！全世界のたたかう人民と連帯し、國際主義につらぬかれたプロレタリアートの政治闘争を組織せよ！五・六月闘争の先頭に立て！

全国のたたかう労働者人民諸君！

三里塚闘争を。プロレタリア階級闘争の強固な一翼へ！

三・二七現地闘争の「二分裂」という事態のなかで、三里塚闘争はいよいよ重大な局面を迎える。日本階級闘争の不抜の先端拠点でありつづけてきた三里塚闘争の地平を、防衛し発展させるためには奮闘することは、すべての先進的労働者人民にひとしく課せられた任務である。いまこそ三里塚闘争を、敵国家権力の破壊攻撃と、

右翼日和見主義潮流による清算・解体・変質の策謀から防衛し、社会主義（武装蜂起とプロレタリア独裁）をめざすプロレタリア階級闘争の強力な一翼へと発展させていくことが要求されている。

われわれは右翼日和見主義とたたかい、三里塚闘争と反対同盟の新たな発展をかちとるという見地から、三・八反対同盟総会を支持し、三・二七横堀集会に結集した。ひきつきわれわれは三里塚一期決戦の勝利と日本階級闘争総体の前進のために全力をあげる決意である。全国のたたかう労働者人民諸君のさらなる決起を強く訴える。

戦闘的農民運動からの脱皮に直面する三里塚闘争

反対同盟の「分裂」にいたった今回の事態をわれわれは何とおさえるべきか。また三里塚闘争が逢着した問題を何としておさえるべきか。

三里塚闘争は農民階級の闘争としてはじまつた。反対同盟もまたその団結体として生みだされた。農民階級闘争の経済的基礎は生産手段たる土地の所有に存在し、そのもともと典型的なものとして土地よこせ運動、土地守れ運動が存在する。

戦後農地解放はわが国の農民階級のなかから小作人を一掃し、大量に自営小農をつくりだし、戦後保守基盤を形成した。三里塚農民も層的にはこの一部であり、三里塚闘争が政府の強権的土地収奪に抗した土地を守れ運動からはじまつたのも当然であった。

農地死守を原点とする三里塚闘争は、一七年におよぶ軍事空港建設とのたたかいのかで、この土台の上に反戦反政府運動を避けにうちたて、武装闘争をたたかないといたつた。ここでわれわれが見ておかねばならないのは反戦反政府運動にせよ武装闘争にせよ、それらが三里塚闘争に登場した意義の大きさにもかかわらず、それらは依然、農民階級の要求と闘争の枠内にあつたということである。

しかし一七年間にわたる国家権力との非妥協のたたかいの持続と、全般的な階級状況の三里塚への反映は、三里塚闘争と反対同盟農民の団結をこの発展段階にとどめておくことをしなかった。三里塚闘争は反戦反政府運動と武装闘争の地平をさらに発展させようとしたし

たときに、不可避に現在の帝国主義国家権力を打倒し社会主義を樹立していく道、反帝国主義と社会主義の道への飛躍に直面せざるをえなかつた。それは敵の懷柔策と条件派育成攻撃との闘争をめぐって決定的に煮つまつた。敵の懷柔策は農民の小土地所有者ゆえの不安と動搖につけこみ、これを逆手にとった攻撃であり、この攻撃を前にして反対同盟農民は狭い農民階級の経済要求・政治要求のなかにとじこもり条件派へと転落するのか、それともみずから立場を農民階級からプロレタリア階級のそれへと移行させ、戦闘的農民運動から社会主義をめざすプロレタリア階級闘争の一翼へと三里塚闘争を飛躍させる先頭に立つか——本質的にはこのような選択を迫られたのである。

反帝主義と社会主義の要求は私的生産手段たる土地の保守要求の枠内におさまること

はありえず、三里塚闘争と反対同盟は大きく質的に転換を要求されるという事態を迎えた。ここに三里塚闘争と反対同盟が今までどうりの團結ではやつていけなくなつた理由が存在する。農民階級（闘争）からプロレタリア階級（闘争）へ——これに直面して三里塚闘争と反対同盟の階級的分解が発生し、政治的流動と分解が発生したのである。

それは反対同盟内部には二つの主要な政治傾向としてあらわれている。

一方の政治傾向は、以上のべた三里塚闘争の逢着問題を回避し、三里塚闘争の階級的飛躍を回避し、戦闘的農民運動の地平、すなわち土地を守れ、反戦反政府の要求に三里塚闘争とその團結をひきもどす役割りを、客観的

にはたしているといわざるをえないものである。他方の政治傾向は、三里塚闘争の逢着

同盟の團結の出発点そのものを清算しようとする傾向が強いことを指摘しておかねばならない。それは被抑圧階級としての農民の闘争を軽視し、小生産手段所有者としての生活改良要求にこれをとつてかえることに帰結するものであり、また反戦反政府の要求すら清算することに帰結するものである。

今回の「分裂」という事態によつてこの二つの傾向は、それぞれ純化の道をたどつているところなければならない。しかし同時に、いまだ少數ではあるとはいえ、この二つの傾向に組みせず、三里塚闘争の逢着問題を真正面からひきうけようとする部分の着実な前進もかちとられているのである。

三里塚闘争の発展領導しえぬ「左」右の日和見主義

※※※

このような三里塚闘争と反対同盟の大きな流動と分解にたいして、この事態を革命的に突破するためにこそすべての政治党派はその指導性を最大限發揮することが問われつづけてきた。では「分裂」にいたる事態にたいして諸党派はいかなる態度をとつたか。

まず革共同中核派である新左翼運動内部で最大の物質力をもち、反対同盟にたいして最大の影響力を有していた彼らは、この問題にどのようにこたえようとしたか。

中核派は三里塚闘争がたんなる農民運動ではないことは認める。それどころか「三里塚二期決戦勝利、革命的武装闘争をもつて日帝打倒の総蜂起をきりひらけ」と主張し、三里塚闘争が蜂起の突破口であるとまで位置づけている。しかし彼らは反対同盟農民が農民という不斷に動搖する階級的立場を保持したまま、革命的任務をになうことができると言

弁する。彼らは三里塚闘争と革命運動の結合を強調すればするほど、その先頭に立つべき農民の階級形成を「農地死守」という意識に直接依拠するという矛盾と誤りを深めざるをえないものである。中核派は今回の「分裂」にさいして、三里塚闘争の歴史的進歩問題に正面から取り組みせず、三里塚闘争を戦闘的農民運動として防衛するという以上の積極的役割りを何らはたすことはできなかつた。

他方、第四インター、プロ青、赫旗などをはじめとする右翼日和見主義者の潮流はどうか。

彼ら右翼日和見主義諸派にとって、三里塚闘争のこんにちまでの地平は彼らの戦略上、不都合なものであつた。三里塚闘争を反自民をゆいいつの政治基準とした自民党農政に対する農民運動のレベルにまで解体させること、もつて三里塚闘争を市民主義議会主義政治潮流の一翼へと組みこむことが彼らの党派利害であり、党派路線であった。彼らは今回の「分裂」の過程で、中核派は三里塚闘争を革命運動にしようとした。だから反対同盟の主体性を無視することになった。三里塚闘争はあくまでも農民運動である」と要約しうる反動的総括をもちこみ、三里塚闘争の右からの再編をもくろんだのである。右翼日和見主義の台頭によって三里塚闘争は非常に困難な局面に立たされている。右翼日和見主義の暗躍に抗し、懷柔策との闘争を強化し、条件派の土壤を根絶し、また闘争と団結を強化するための公然たる論争を組織するなどのたなかが、きわめて重要なになってきている。

中核派と右翼日和見主義諸派の対立点は批判的に概括すれば、三里塚闘争の戦闘的農民運動としての固定化か、それともその一挙的清算、議会主義的政治と結合した社共との野合、一地域住民闘争への転落かとして存在している。しかし後者はもちろんのこと、前者も三里塚闘争が逢着した課題を革命的に突破するものではない。戦闘的農民運動からの階級的脱皮といふ三里塚闘争の今日的課題を不問に付しているという点では、両者の立場は同一である。

われわれは「左」右の日和見主義と分岐した新たなたたかいを、独力ででもきりひらいしていく必要がある。

革命派の陣型強化し三里塚闘争の防衛と発展を！



三里塚闘争の発展をめぐる新たなたたかいの前提に、右翼日和見主義者たちとの党派闘争がしつかりとすえられなければならない。くりかえすが彼らの策謀はけつして三里塚闘争の変質のみにとどまるものではない。彼らは三里塚闘争を一地域のたんなる住民運動、農民運動へとひきずりおろしつつ、彼らの「全国的政治展望」のもとへ三里塚闘争をひきず

りこもうとしているのである。その骨格は市民運動、住民運動、労働運動などの諸運動の横断的結合のかたちをとりながら、社共人民戦線と融合した新たな議会主義政治潮流の形成を展望するものである。こうすることによって右翼日和見主義者たちは、反対同盟農民だけでなく多くの戦闘的労働者たちを右翼日和見主義政治のなかにとりこもうとしているのである。

右翼日和見主義との闘争を堅持し、われわれは次の任務をかかげてたたかいぬく。

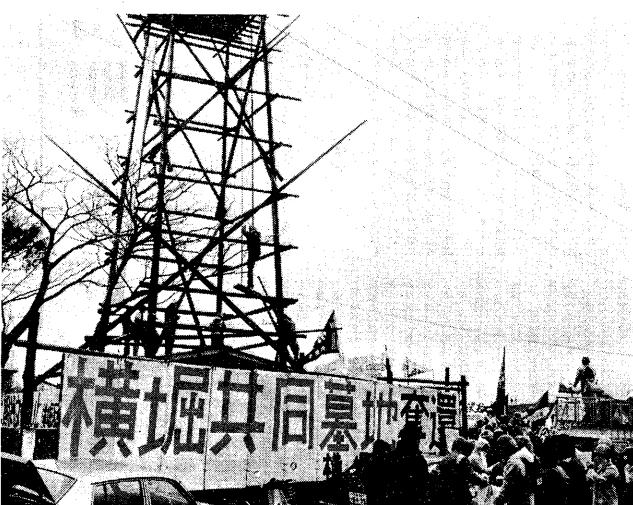
第一に反対同盟の先進的農民と連帯し、現在の局面を発展的に打開する革命的主体として、反対同盟内に強固なプロレタリア的指導部の建設をかちとることである。

ここ二、三年の三里塚闘争は「反戦反核の砦」「被差別人民、被抑圧人民の反政府反権力のたたかいの先頭に立つ」などの主張に見られるように、自然成長的ではあれ戦闘的農民運動からの脱皮にむけた苦闘をつづけてきた。またこのなかから「三里塚闘争は戦争も差別もない新しい世の中をつくるたたかいだ」と意識する先進的農民をも生みだしてきた。

彼らの階級的成长に連帯し、彼らが資本主義の打倒とプロレタリア独裁の樹立をめざす社会主義革命の戦士として登場するために、最大限の支援と援助をふりむけることこそ、いま革新的プロレタリアートがなすべき第一級の任務である。三里塚闘争の地平の清算に反対し、同時に三里塚闘争の戦闘的農民運動への固定化にも組みせず、自己の未来をプロレタリア社会主義革命の勝利のうちに求める反対同盟の革命的指導部の形成にむけた努力なくして、われわれは今後の三里塚闘争の展望を語ることはできない。

第二に三里塚闘争の階級的発展の実践的環力を階級的労働運動との結合に定め、これを強力に推進していくことである。

もちろんわれわれはこれを右翼日和見主義者のように、三里塚闘争にたいする労働者による支援・援助一般や、あるいは社民的労働運動と三里塚闘争との結合として主張するのではない。もはやそれらは現在の三里塚闘争にとつては極端である。いま何よりも必要なのは先進的農民の革命的プロレタリアートへの意識的な形成事業であり、その実践環として階級的労働運動との結合をわれわれは主張するのである。これを推進するためには当然のことながら、階級的労働運動を構築するためのたたかい、その全国的陣型をつくりあげていくたたかいの前進が、先進的労働者たちの総力を結集してかちとられなければならぬ。われわれはこの「一戦場として「労働情報」および「全国労組連」に注目してきたが、これらを新たな市民主義議会主義政治潮流形成の基盤に化そとする右翼日和見主義を許さず、ここに結集する先進的労働者とともに、



争)の構造と質を変革するたたかいを創出していくかねばならない。

第三に「左」右の日和見主義政治ブロックに対決し、武装せる革命の伝導路と労研建設を前進させ、革命的政治共闘を組織化し、総じて革命派の主体的陣型を強化することである。

今回の三里塚運動は中核派を中心とする党派ブロックと、右翼日和見主義党派ブロック

の二つの党派ブロックについてはすでにのは両者とも三里塚闘争と日本階級闘争の革命的発展を領導するものではない。右翼日和見主義の党派ブロックについてはすでにのがぞれた。他方の党派ブロックの中心である中核派は、その急進民主主義革命論(先制的内戦戦略)と戦闘團路線の固定化によって、階級闘争への全般的対応力を急速に喪失し、同時に三里塚闘争の発展の展望をも示していない。

われわれは彼ら「左」右の日和見主義者との総路線的分歧を鮮明に画し、武装蜂起一プロレタリア独裁の旗を堅持して、新たな共闘と党派闘争の組織化に着手せねばならない。そしてその中核に、党的指導とむすびついた密接せる政治組織部隊としての労研を登場させねばならない。

第四に以上をふまえて、三里塚現地を要とし、あらゆる懷柔策を許さず日帝と公団による二期着工攻撃とたたかいことである。とりわけ現在の事態をチャンスとばかり強められる敵国家権力の反対同盟破壊の策動、八月パイプラインによる二期工事完成時の必要燃料送油開始の攻撃、九月着工がもくろまれる成田用水攻撃にたいする強固な闘争体制を構築することは急務である。

全国のたたかう労働者人民諸君！

吹きあれる日本帝国主義の侵略反革命戦争とフアンズムの準備と総対決し、プロレタリア階級闘争の一大拠点として三里塚闘争の防衛とさらなる発展をかちとれ！

共産主義者同盟(全国委)とともにたたかうねこう！



共産同の大旗先頭に佐世保市内デモに起つ3・21実行委

3・21
佐世保

朝鮮人民と連帯し

海・陸でエンプラ阻止たたかう

巡航ミサイル搭載の戦艦「ニュージャージー」の反復寄港すらもくろまれているのである。

第二には、日帝一中曾根の戦争準備・安保再編の一環をなす攻撃である。一月一日、十七日とあ

いついだ訪韓・訪米において「日米運命共同体」「不沈空母」をぶちあげた中曾根の野望を具体化せんとしたものであった。

そして第三に、公然たる原子力空母一核兵器のもちこみによつて高揚する反戦反核運動に先制攻撃を加え、たきつぶさんとするものであった。

六八年一月十八日、ベトナム侵略反革命戦争に出動すべく寄港し

たエンタープライズを、共産同を中心とする革命的左翼は激しい大衆的武装闘争でむかえうち、六九年末にいたる階級闘争の巨大な高揚を切りひらいた。当時は比較にならないほどに強化された日帝の侵略反革命戦争準備とのたたかいを切りひらくために、今回のエンプラ寄港阻止闘争は決定的位置をもつたのだ。われわれは、海上と陸上にわかれ、断固たる闘争をたたかいた。

戦闘的に阻止行動たたかいく

わが共産同（全国委）海上阻止行動隊は、三月二一日早朝五時より行動を開始した。六時半、大共産同旗を船首におし立てて、実力阻止行動に出撃する。今日のたたかいの厳しさを象徴するように灰色の雲に閉ざされた雨あがりの空のもと、エンプラを高後崎沖で捕捉すべく、三・二一実行委の船団は波をけたてて進撃する。

七時三〇分、エンプラを先導するミサイル駆逐艦「ワーデル」と「ハリー・W・ヒル」が前方を横切り、

七時四五分、九十九島沖に姿を近づくにつれて、まさに動く核基地ともいうべき小山のような艦体が迫つてくる。艦板には何十機と

戦闘機がおかれ、いそがしくアンテナが回転している。これが、か

つてベトナム民族解放闘争をたたかいつぶすために出動し、ベトナム人民の大虐殺をおこなったのだ。

そして、いま朝鮮半島に出動し、南朝鮮人民の反帝民族解放闘争と共和国の社会主義建設を血の海に沈めんとしているのだ。日本プロレタリアートの国際主義的責務にかけてこれをどうして許せようか。

「チームスピリット八三弾劾！」「朝鮮人民に連帯してたたかうぞ」「エンプラ寄港実力阻止！」「朝

われわれは断固たるシュプレヒコールを浴びせかける。そして、エン

プラの進路に立ちふさがるべく佐世保湾へ進撃する。だが海上保安庁は、突然十数隻にのぼる巡視艇で前方に立ちふさがり、湾内で

のデモを阻止するという許しがた

い弾圧にふみだした。さらに空か

らはヘリコプターが低空でおそ

かかり、われわれの阻止行動をな

くこと。そのもとに、昨年来の反

戦反核運動の階級的領導をなすこと。

第二に、日帝一中曾根の

侵略反革命戦争準備とたたかう

ること。そのもとに、昨年来の反

戦反核運動の階級的領導をなすこと。

第三に、日帝一中曾根の

侵略反革命戦争準備とたたかう

こと。

西日本集会（松浦公園）

反戦反核運動の階級的発展を！

他方、陸上部隊は、午前四時佐世保市内に入った。そして、午前五時三・二一実行委の諸君とともに松浦公園に登場した。権力一機動隊は、米軍・自衛隊基地の防衛にきゅうきゅうとし、わが部隊には一指もふれることができない。午前六時、暗やみをついて三・二一実行委の集会が開始される。

発言に立った共産同（全国委）の同志は、次のようなたたかいの方向を提起した。

七時三〇分、エンプラを先導するミサイル駆逐艦「ワーデル」と「ハリー・W・ヒル」が前方を横切り、

七時四五分、九十九島沖に姿を近づくにつれて、まさに動く核基地ともいうべき小山のような艦体が迫つてくる。艦板には何十機と戦闘機がおかれ、いそがしくアンテナが回転している。これが、かつてベトナム民族解放闘争をたたかいつぶすために出動し、ベトナム人民の大虐殺をおこなったのだ。

そして、いま朝鮮半島に出動し、南朝鮮人民の反帝民族解放闘争と共和国の社会主義建設を血の海に沈めんとしているのだ。日本プロレタリアートの国際主義的責務にかけてこれをどうして許せようか。

「チームスピリット八三弾劾！」「朝鮮人民に連帯してたたかうぞ」「エンプラ寄港実力阻止！」「朝われわれは断固たるシュプレヒコールを浴びせかける。そして、エンプラの進路に立ちふさがるべく佐世保湾へ進撃する。だが海上保安庁は、突然十数隻にのぼる巡視艇で前方に立ちふさがり、湾内で

のデモを阻止するという許しがたい弾圧にふみだした。さらに空からはヘリコプターが低空でおそかかり、われわれの阻止行動をなすくこと。そのもとに、昨年来の反戦反核運動の階級的領導をなすことである。そして第三には、社共組織することである。社共は、「非核三原則を守れ」「米帝の核戦略にまきこまれるな」と主張し、労働者人民を自國帝国主義打倒・社会主義革命から切斷し、排外主義にひきこもうとしている。この社共と和解し、新たな議会主義市民主義潮流を形成せんとする四トロント政治共闘を、右翼日和見主義を全階級戦線で打倒せよ。第四には、ブルー・赫旗など右翼日和見主義を急進民主主義と断固たる総路線的分歧を画すものへと強化・発展させよ」と。

政治共闘集会後、全国委独自集会をおこない、十一時からの青婦協集会に参加すべく結集する労働者に對して、宣伝カーによる圧倒的な宣伝・煽動戦を貫徹した。

十時三〇分、海上行動隊が松浦公園に到着する。ただちに、三・二一実行委の報告集会を開催し、圧倒的な労働者の注目を浴びた。

その後、十一時からの青婦協集会、十三時からの総評西日本大集会に合流し、戦闘的デモンストレーションをうちぬいた。

この地平をうけつけ、今春季日帝一中曾根の戦争とファシズム準備との闘争に全力で決起せよ！



**3・27
横堀**

右翼日和見主義との闘争訴え 三里塚現地闘争に決起



主催者挨拶に立つ熱田代表

三里塚闘争史上、初の「分裂」集会となつた三・二七現地闘争は、この機をとらえて新たな闘争破壊に奔走しはじめた日帝一公団に対する、反対同盟を先頭とした反撃の第一歩としてたたかれた。反対同盟は、「三里塚闘争はもう終わりだ」とばかりに、介入を画策した動労革マル、社共どもを尻目に現在のこの試練がいかに大きくとも、その解決をゆいといつ三里塚闘争の発展をもってのりこえていく決意を大衆的に明らかにした。

◎ 右派の策謀とたたかえ

しかし同時に、三・二七闘争の全過程は、いかなる意味でも現在の延長線上に三里塚闘争の真の発展がありえないことを雄弁に物語るものであった。すなわち総会に結集した農民にとって、「実役派」農民にとってもこの「分裂」の背後でうごめく右翼日和見主義の政治的策謀との正面からのたたかいなくして一步たりとも前進しえないという問題が、誰の目にも鮮明なものとなつたといわなくてはならない。

なぜならば、今闘争において今回の一回の「分裂」の隠れた立て役者たる一部右翼日和見主義が前面におどり出たからである。彼らは三里塚闘争の領導方向をめぐって生み出された反対同盟農民の中核派から離反を、たくみに「反中核反党派」へとまとめあげ、自らその「代弁者」の位置にすべりこんだ。「大衆運動への党派のひきまわし反対！農民の自主性尊重」、この大義名分のカゲで、彼らは着々と三里塚闘争の歴史的地平を清算せんとしているのである。

横堀集会全体を支配したところのこの「反中核反党派」なる主張

は、「中核排除」という単なる農民の心情の代弁にとどまるものではない。そのより反動的本質的役割は、「中核批判」に名をかりた三里塚闘争の右翼的総括の陰然たるものである。「三里塚闘争を革命運動にしようとすることはあやまりだ。それは農民無視だ。三里塚闘争は農民運動なんだ」、これが彼らの本音なのである。

とりわけ労働情報内右翼日和見主義は、「日帝打倒の前にまず中曾根を打倒しよう」などの発言に明らかなように、三里塚闘争を社共と肩をならべた反自民統一戦線の一翼に解体し、議会選挙のための集票運動にすりかえる自論みをあからさまに押し出した。彼らは社共の末席を汚すこととに自身の安住の地をえらんだのである。

このような労働運動をめぐる右翼日和見主義の策動との闘争を一體のものとして現下の三里塚流動化は存在している。横堀集会で連帯のあいさつに立ったタカラブネ労組委員長は、何よりもこのことを

訴え、「農民運動の防衛」なる名目で三里塚闘争の階級闘争としての地平を一切合財清算する部分とともに、さらにはエセ「労農同盟」たたかい、さらにエセ「労農同盟」をふりかざして先進的農民を議会主義・市民主義と和解せんとする動向に、階級的労働運動の名において、全階級戦線にわたる反撃を開始することを、ゆいといつ高々と掲げぬいた。

◎ 三里塚闘争を防衛せよ

また、三・二七横堀集会においては、「反戦・反核の砦、労農連帶、成田用水攻撃との闘争」という三里塚闘争の先端的戦地が後景に退き、かわって「緑の大地をとりもどそう」という主張が強く打ち出された。

この傾向は、意識するとしないとにかくわらず、三里塚闘争の戦闘性をそぎおとし、「緑の党」ばかりの没階級的・市民主義的運動の一角に三里塚闘争をおいやること



横堀ヤグラ前に
結集した労農学

第五回

4 · 29
明大

全国学生共同闘争がちとる

四月二九日、日大（銀ヘル）呼びかけによる第五回全国学生共同闘争が七五〇名のたたかう学生の結集でたたかいとられた。わが京産大社思研、千葉淑徳大社思研は四・二九同志社大実行委の同志とともに、本闘争に決起し、密集した隊列で終始領導的にたたかいぬいたことを報告する。

なく、八〇年代日本学生運動にとって決定的攻防へと押し上げねばならぬいたたかいであることを訴えた。

とともに、本鬭争に決起し、密集した隊列で終始領導的にたたかいぬいたことを報告する。

共同鬭争の冒頭にあたつて登壇した日大（銀ヘル）は、四・八武道館での統一入学式粉碎鬭争を突破口に、今春期ファシスト反憲学連との鬭争の火蓋がすでに切つておとされたことを宣言。つづいて今年の自主新歓鬭争における支援一名の不当逮捕、および四・二五実力でたたかいとつた日大文理学内集会のフィルムが上映され、アシズム学生運動との対決の最前線の緊迫感が会場を圧倒する。

「一方で積極的に中間管理者として立候補しつつも、他方、独自の戦略・戦術をもった相対的に当局とは独立した存在」であり、「日帝の戦争準備－安保・改憲攻撃と運動しつつ日帝の危機を右から突破せんとする部隊」に他ならぬことを提起。それゆえ、これらは、単に日大個有のエピソードで

はいと矢張したたかしの第一歩を、たたかう日大（銀ヘル）を最先頭に大胆にふみ出したことに他ならない。

四月二十四日、京都部落解放センターにおいて四・二九全国学生共同行動勝利同志社大実行委員会の主催で、日大闘争連帯京都学生交流会が開かれた。

4・24

日大闘 学生集

集会は、三〇余名の先進的學生の結集のもと、日大鬭争のフィルム上映をもって始まり、参加者はあらためて反憲学連粉碎、日大闘争連帯の意を固くした。

4・24 日大闘争勝利！ 学生集会開かる

京都



かちとる

を日帝の戦争とファシズムの側に屈服させるのか、プロレタリア階級闘争の側に奪還するのかをめぐる攻防であり、学生の階級的解体状況を突破し、階級的労働運動と結合した革命的学生運動を再建する決意を述べた。くわえて、四・二四京都学生交流集会の報告と日大（銀ヘル）への檄布の贈呈をおこない、満場の拍手のなかで銀ヘルとの階級的団結をしっかりととうち固めたのである。

四時間半にわたる集会を貫徹した全部隊は、銀ヘルを先頭に、靖国神社、日本本部をにらんで戦闘的デモンストレーションに出発する。反憲学連の敵対を粉碎し、部隊は終始一貫、毅然としてデモを貫徹した。外堀公園において総括提起を行なった銀ヘルの同志は「アンストが学内登場していようといまいと、ファシスト学生運動との対決はすべてのたたかう学友の共通の任務である。その内実は学生自治確立一般ではなく、日帝の戦争準備とたたかい階級的労働運動と結合する学生運動の建設である。学生自治確立は日帝の戦争準備とファシストの台頭とのたたかいぬきにしてない。学園を戦争とファシズムの砦とするのか、それとも反戦反安保の砦とするのか、とにかくたたかう」と鮮明に提起した。日大（銀ヘル）を先頭とした全国のたたかう学友は本闘争をもっていよいよ階級的労働運動と進む革命的学生運動の全国的構築にむけた進撃を開始した。

われわれは戦後学生運動にとってまったく未経験なこのたたかいをまつたく、右翼日和見主義、急進民主主義者を尻目に彼らとの固い階級的団結をもって何んとしてもきりひらいといかなくてはならない。

へと導く輩に他ならないなら、われわれは社会主義革命の確信と結合した革命的学生運動の全国陣型の構築をもってこれに応えよう！」とよびかけ、ファシズム学生運動との対決をとおして学生運動のすむべき大道の先頭に立つ決意を表明した。

次に結集した各学園からの数十団体を数えるアピールが続々となされた。特徴的だったのは、第四インター系と解放派系の三里塚闘争をめぐる激しいヤジの応酬である。それは、現下の三里塚一労働運動をつらぬく流動の学生戦線への反映であり、同時に、右翼日和見主義と急進民主主義のあいだのこの対立が三里塚闘争と日本階級闘争の発展にとって何らの積極的役割りを果すものでもないことをも明らかにした。この中で千葉淑徳大社思研の同志は、現下の流動としつかりと切りむすぶ学生運動の任務として、全人民的政治闘争のプロレタリア政治闘争としての領導、三里塚闘争の革命的発展、階級的労働運動との結合、前衛党建設と結合したプロレタリア政治組織の建設を提起した。そして右翼日和見主義、急進民主主義者によって小戦術的対立の中に閉絶されている三里塚闘争の流動を日本階級闘争総体の発展とむすびつけたたかう、その渦中でこそ、革命的學生運動を再建する決意をきづぱりと表明したのである。さらに、四・二九同大実行委は、ファシズム学生運動との闘争が、学生

烽 火

集会では、日大当局一警察権力が自主新歓闘争をたたかう日大生に対し逮捕攻撃を画策するという情況のなかで、急きよ不参加を余儀なくされた日大銀ヘルからの「階級的労働運動との連帯を！」といアピールが読みあげられた。ついで、集会基調提起とタカラブネ労研からの問題提起ののち、一時間にわたる活発な討議が行なわれた。

集会基調は、オナシズム学生運動が、将来のプロレタリアートとしての学生の絶望感、孤立感、疎外感につけこみ、これを他帝国主義、被抑圧民族、被差別人民への憎悪へと転化し、戦争とファシズムへ組織するものであることを鮮明に提起した。そして、ファシズム学生運動との攻防の一時代に勝

れた。

集会基調は、オナシズム学生運動が、将来のプロレタリアートとしての学生の絶望感、孤立感、疎外感につけこみ、これを他帝国主義、被抑圧民族、被差別人民への憎悪へと転化し、戦争とファシズムへ組織するものであることを鮮明に提起した。そして、ファシズム学生運動との攻防の一時代に勝

利するには、日共学生運動とこれに屈服する右翼日和見主義・学園

ア階級闘争の一翼をになう革命的暴力と全面的に訣別し、プロレタリア階級闘争の一翼をになう革命的暴力と全面的に訣別し、プロレタリア運動としての戦後学生運動と全面的に訣別し、プロレタリア運動としての戦後学生運動を再建せねばならないことをあきらかにした。さらに、タカラブネ労研は労戦の産報化攻撃を粉碎する階級的労働運動の全国

陣型の建設に学生の決起を呼びかけるとともに、未組織労働者の組織化とともに着手しようと呼びかけた。

これらをうけての熱心な討議のア階級闘争の一翼をになう革命的暴力と全面的に訣別し、プロレタリア運動としての戦後学生運動を再建せねばならないことをあきらかにした。さらに、タカラブネ労研は労戦の産報化攻撃を粉碎する階級的労働運動の全国の決起を全体で確認し、主催者お

とをあきらかにした。さらに、タカラブネ労研は労戦の産報化攻撃を粉碎する階級的労働運動の全国の決起を全体で確認し、主催者お

明をうけて、革命的学生運動のさらなる前進をちかいあつた。

洛南労組連が地域共闘集会

4・13 京都

四月十三日、京都南部の地において、洛南地域春闘勝利！大阪伸銅闘争勝利総決起集会が八〇〇名におよぶ労働者の結集でたたかいつられた。

大阪伸銅労組は、本年二月二八日、親会社日商岩井による企業閉鎖、全員解雇の一方的通告に対し、三月二二日以降、全面ストライキ・完全ピケット体制をもってたたかひぬいている。

洛南総決起集会は、この大阪伸銅構内において洛南労組連絡会議と大阪伸銅労組共催で、大阪伸銅労組、全通山城青年部、全金規別共闘、自治労をはじめ、ほぼ全京都の戦闘的労働者の総結集をもつてたたかいたられた。とりわけ四〇〇名をこえる大動員を連日の職場団交、时限ストという春闘のただなかからかちとった。

集会では、大阪伸銅労働者から「やつらが倒れるか、われわれがとても、タカラブネ労組はこの日、四〇〇名をこえる大動員を連日の職場団交、时限ストという春闘のただなかからかちとった。

三月十八日、大阪において「戦争問題を考える会」のよびかけによる実行委が主催する「日朝連帯、八三春闘勝利、関西集会」が開かれた。結集した八十名の労働者・学生は、「反米反日反金斗煥」を掲げ階級闘争として前進をつけた。朝鮮労働者農民のたたかいへの連帯を打ち固めるとともに、日帝打倒、米日韓反革命軍事体制打倒を鮮明にし、今春闘の活動の中で全力あげて社共にかわる新たな政治潮流と部隊を建設していくことを意志一致した。

基調報告はこのたたかいのため、ブルジョアジーの手代として南朝鮮、東南アジアへの新植民地主義支配を支え、日本のプロレタ

倒れるか」という腹の底からの怒りと「企業の枠をこえた地域共闘がいかに重要であるか、自分たちのたたかいのなかから痛感した」という訴えがなされ、京都における階級的労働運動の建設が、中小零細労働者の苦闘とともに前進していることをはつきりと物語っていた。

全民労協発足後、初の今八三春闘は、大手労組一資本のブロックのもとで、春闘史上最悪の低賃金におさえこまれようとしている。

3・18 社共にかわる政治潮流の形成かかげ 春闘勝利全闘西集会

大阪

リーアートを侵略反革命戦争の尖兵として動員せんとする全民労協を打倒することを訴えた。そして同時に、これに合流する社会党と一方でこれらを批判しつつ、その実は「政治倫理の確立」「内閣打倒」の議会主議と反自民統一戦線の道へとたたかいをねじまげる日共・右翼日和見主義派との全面戦争を提起した。

基調報告をうけて諸団体アピールに入り、高槻労研は、管理春闘との闘争、プロレタリア政治闘争の建設を提起し、電通労政の仲間は「官民共闘、未組織労働者の組織化、国益企業益排外主義との闘争、プロレタリア政治闘争、右派幹部とたたかう非公然活動能力のねばならない」。



地域春闘集会に八〇〇